

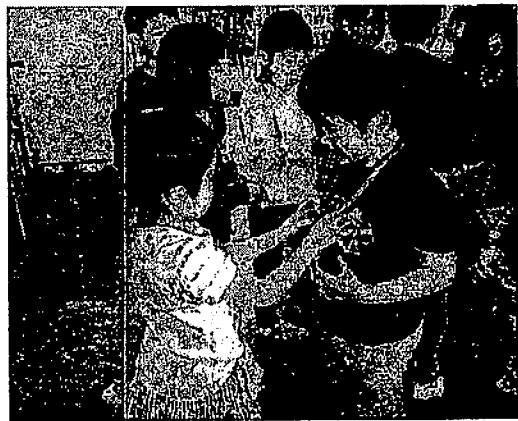
平成30年度

印旛地区教育研究集会
生活科分科会 提案資料

研究主題

深い学びを実現する児童の育成

～児童の思いや願いを実現していく生活科学学習～



第1部会 佐倉市立井野小学校

松浦 奈緒子

御厨 江里子

鳩川 菜々美

1. 研究主題

深い学びを実現する児童の育成

～児童の思いや願いを実現していく生活科学習～

2. 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領から

29年度に告示された新学習指導要領の総則第3「教育課程の実施と学習評価」の1として、「主体的・対話的で深い学びの実現」とある。その際、偏りなく実現できるようにするものとして以下の3つが挙げられた。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること
- (3) 学びに向かう力、人間性等をかん養すること

これらの3つを学校教育全体並びに各教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしなが、教育活動の充実を図ることが求められている。

生活科の教科目標としては、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための能力を次のとおり育成することを目指す」とあり、上記の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」を具体的に表した3つの点を挙げている。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分の関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

以上に挙げられていることから、新学習指導要領で大切にされている「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」を柱として、主体的・対話的で深い学びとなるように授業を計画していくことが必要なのだということがわかる。

(2) 学校教育目標

本校の学校目標は、

「思いやりがあり、学び合い、たくましく生きる子の育成 ～一人一人が輝く学校～」である。

目指す児童像は、

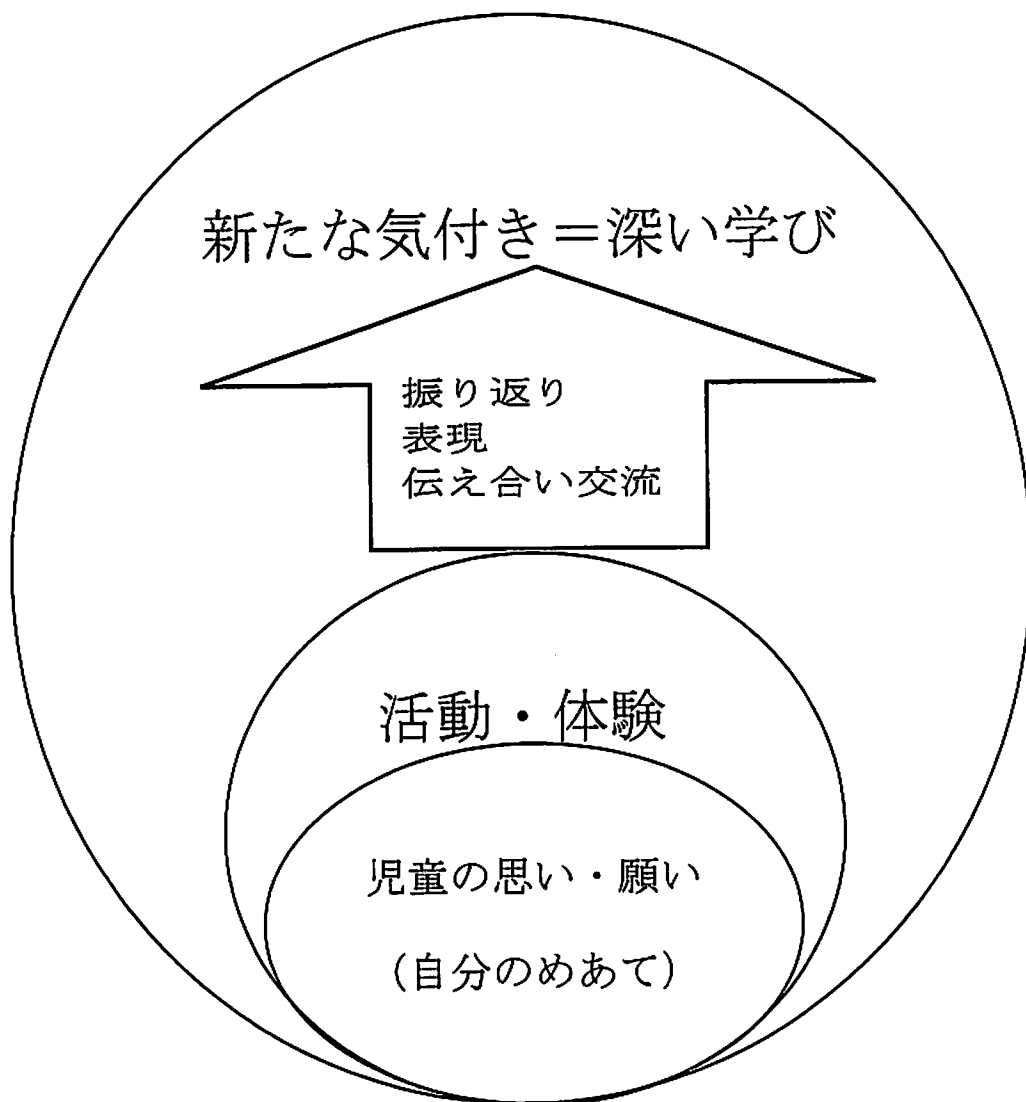
- (1) 思いやりがある子 …自分も友達も大切にするとともに、善悪の判断を正しくできる子
- (2) 学び合う子 …自ら学び、考え、豊かに表現できるとともに、友達と学びを高め合うことができる子
- (3) たくましく生きる子…心も体も健康で、困難にくじけない子

本校では、「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童を育成していくことで、一人一人が輝くことができ、充実した学校生活を送れるのではないかと考えた。学校生活は、これから目まぐるしく変化していく社会で生活していく上での基礎となる。様々な課題に直面したときに、周りの人々と協力してそれに対してどのように対応していくのかを考えられる力や、困難にくじけない強い心を育てていくことを目指している。

生活科の学習においては、体験を通して気付いたことを友達に伝え、そこから新たな課題を見つけて次の体験のめあてを立てるという流れが目指す児童像（2）「学び合う子」に当てはまるのではないかと考えた。課題を見つけるためには、活動を通して児童の「うまくできた！わかった！」という満足した思いや、「もっとうまくになりたい！もっと知りたい！」というような願いを引き出すことが大切になってくる。

以上、新学習指導要領・学校教育目標から、深い学びを実現する児童の育成を目指して研究主題を設定した。

3. 本研究における「深い学び」とは



「深い学び」を実現するには、「主体的」・「対話的」に学習を進めていくことになる。本研究では、以下のようにとらえた。

「主体的」…体験に向けて自分のめあてをもつこと

「対話的」…体験の中で交流をすること

友達の振り返りを聞いて考えること

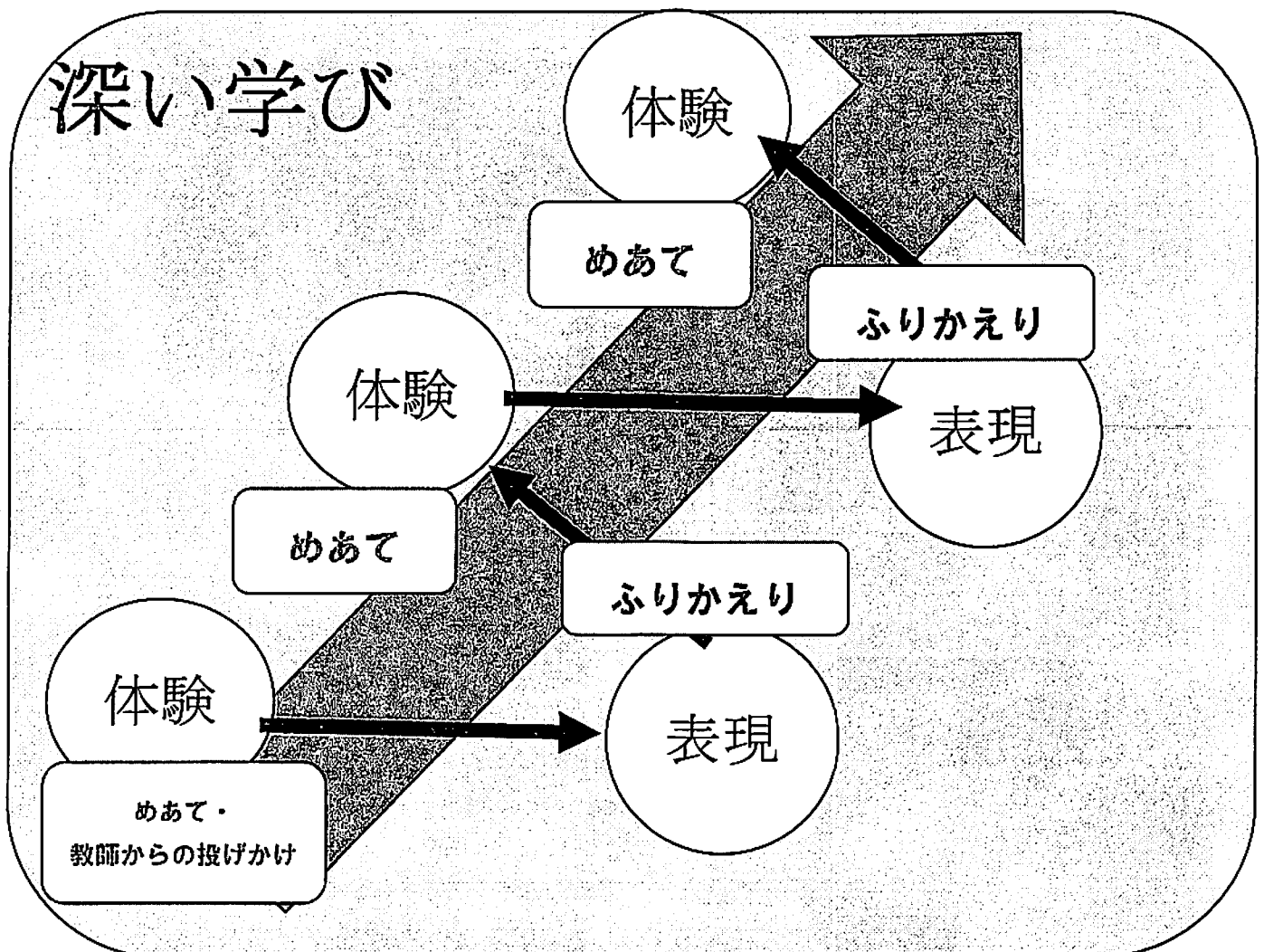


新たな気づきをすること

次の体験にむけて自分のめあてがもてること

「深い学び」の実現

1つの単元を学習していく中で、体験をすること、それを振り返ること、さらに振り返りを生かして次の体験に取り組むことを繰り返し行っていく。繰り返して学習をすることで、より「深い学び」が実現されていくのではないかと考える。



4. 研究仮説について

〈仮説1〉・・・「深い学び」につながる「主体的」な学習

個人で課題をもたせることにより、実現するための方法を見出すことができ、主体的に学習活動に取り組むだろう。

<手立て>

①課題を見つけるための工夫

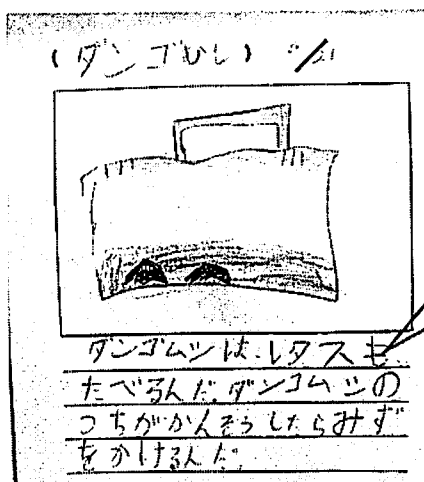
(自由な活動時間、発見情報カード、前時の振り返りカード)

②課題を意識づけるための工夫

(個人の課題の記入、個人の課題の一覧、単元計画の作成、言語活動の設定)

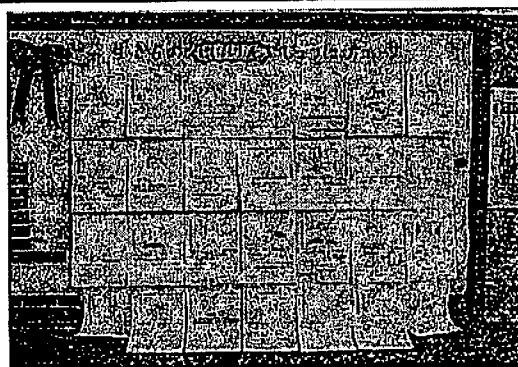
③課題を実現するための工夫

(全体・グループでの話し合い、調べ活動に向けての資料の用意、ICT支援員とともにインターネットの活用)



○発見情報カード

授業や休み時間などを利用して、生き物について発見したことをその都度記入し、掲示した。発見したことが次の時間のめあてにつながったり、友達との情報共有の場になったりした。



○言語活動の設定

意欲をもって調べられるよう、学習の成果を発表する場を設けた。



○資料の用意

児童が調べ学習で使えるような本を市立図書館で人数分程度借りて用意した。児童が知りたいことをすぐに調べられる環境を整えた。

「ふりかえり」

- ◎はっけんしたこと
- ◎ともだちのこと
- ◎上手くいったこと
- ◎こまったこと
- つぎにやりたいこと

*何が上手くいったのか、何がこまったのか、わしく書くこと！

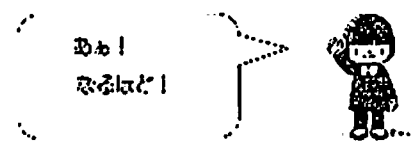
○振り返りの観点
 どのような観点で振り返りカードを書いたらよいのかを提示し、活動での気づきを記入しやすくした。

○色別カード
 個人の振り返りを全体に広める場で使用した。一人ひとりにピンク色と、黄緑色のカードを持たせて、発表者の気づきに対して自分の意見を示した。



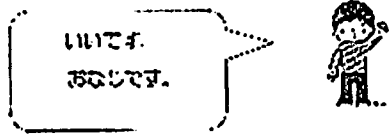
きづいたよ ピンク

きいてみて わかったよ。
 いま はじめて したよ。



おなじ 黄緑

ほく（わたし）も みつけたよ。
 おなじことを おもったよ。



5. 授業実践①【1年生】

1. 小単元名 おもしろいあそびがいっぱい

2. 小単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の内容

- (5) 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくりことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

を受けて設定したものである。

夏ならではの遊びとして、シャボン玉遊び、水遊び、アサガオの花を活用した遊びがあり、それらに取り組んでいく。その中で、シャボン玉遊び、水遊びは、道具をつくることから遊びが始まり、どのように道具を使って遊ぶのかというところにも面白さを見出すことができる。また、遊びながら友達と関わることを通して、友達の気付いたことの良さを感じたり、関わることの楽しさを感じさせたい。

アサガオの花を活用した遊びは、これまで大切に育ててきた植物が花を咲かせたことに喜びを感じるとともに、それを活用して遊びができるという面白さを感じさせたい。遊ぶだけでなく、遊びでつくったものをさらに小物づくりに利用することで、自分たちの生活を工夫して楽しむことができるようにさせたい。

(2) 指導観

シャボン玉で遊ぶという活動は、多くの児童が入学前に体験したことがあり、好きな遊びである。事前に学級の児童に聞いてみたところ、ストローを使ってシャボン玉をつくったことのある児童は多くいたが、牛乳パックやうちわの骨などのストロー以外の身近な材料ではつくったことがない児童が多かった。

そこで、まずは教科書を参考に使ってみたい材料を家庭から持ってくることにし、ストロー以外の材料ではどんなシャボン玉ができるのだろうかということを学級全体の課題として、自由にシャボン玉遊びを楽しみたい。その中で児童は何度もシャボン玉づくりをすることを通して、自分の思いや願いが出てくるのではないかと考える。その後、活動を振り返る時間を取り、グループで自分がした遊びについて伝え合う。よい遊び方があれば全体に広めて、次の遊びのめあてを決める手立てとしたい。次に、遊びのめあてが同じ人同士が組むようにグループを組み替える。同じめあてをもった友達同士で活動することで、自然な会話の中からもめあてを達成するための考えがでるのではないかと考えた。

水遊びについては、半数程度の児童が経験したことがあった。活動内容が、道具や遊び方を工夫して楽しむということでシャボン玉遊びと似ているので、同じように学習を展開させていきたい。

アサガオの花を活用した遊びとして、色水遊び、押し花、たたき染めを行う。色水遊びでは色水をつくった後に、折った半紙に色水を吸わせて模様をつけたり、色水で紙に絵を描いたりする。色水遊びからできた作品、押し花、たたき染めをした紙をもとにして、小物をつくる活動につなげたい。児童には、「もっとすてきに变身させよう」と呼びかけ、上級生が1年生だったころにつくった小物をいくつか見せ、自分たちもやってみたいという思いを引き出したい。どの遊びでできたものをもとにしてつくるのか、どんな小物をつくるのか、つくったらいつ、どこで使うのか、誰かにあげるのかということ具体的を考えさせることで、児童の願いが児童自身の中で明確になっていくのではないかと考える。

<仮説との関わり>

今回の単元は、活動が大きく2種類に分かれている。1つめがシャボン玉遊びと水遊び、2つめがアサガオの花を活用した遊びである。体験と表現を繰り返して、深い学びにせまっていくという流れを単元全体で行っていくのではなく、1つの活動の中で行っていくことになる。

①シャボン玉遊び・水遊びについて

体験1 課題をもつための工夫・・・仮説1

「どんなシャボン玉ができるのかな」

表現1 振り返る時間の確保・次の課題の確認・・・仮説1・2

「つぎはこんなふうにやってみたいな」

体験2 課題を実現するための工夫・・・仮説1

「思い通りにできるように挑戦しよう」

表現2 振り返る時間の確保・・・仮説2

「気付いたことをまとめよう」

②アサガオの花を活用した遊びについて

体験1 課題をもつための工夫・・・仮説1

「何を使って、どんなふうにつくろうかな」

表現1 振り返る時間の確保・・・仮説2

「気付いたことをまとめよう」

3. 単元の目標

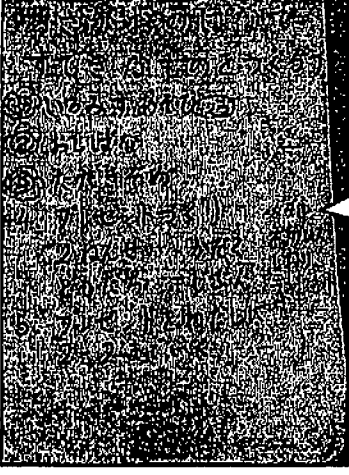


○夏の自然遊びや行事に関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとすることができる。(関心・意欲・態度)

○必要な道具などを使い、工夫して遊んだりつくったりすることができる。(思考・表現)

○季節の変化、自然物で遊んだりつくったりする楽しさ、みんなで遊ぶ楽しさに気付くことができる。

(気付き)




4. 指導計画（9時間扱い）

時配	主な学習活動	評価規準（観点）
1	<ul style="list-style-type: none"> 夏の遊びとして、「シャボン玉遊び」「水遊び」「アサガオの花を生かした遊び」を知り、どんなことができそうかイメージを広げる。 単元計画をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の遊びに興味をもとうとしている。 <p style="text-align: right;"><関・意・態>（発言）</p>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> シャボン玉をつくって遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> シャボン玉に興味をもって進んで遊ぼうとしている。<関・意・態>（行動・発言） 自分のめあてを達成するためにどのようにすればよいかを考えながらつくっている。 <p style="text-align: center;"><思・表>（行動・振り返りカード）</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びながら用具や吹き方を工夫することで、できるシャボン玉が違うことに気付くことができる。<気付き>（発言・振り返りカード）
2	<ul style="list-style-type: none"> 水遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 水遊びに興味をもって進んで遊ぼうとしている。<関・意・態>（行動・発言） 自分のめあてを達成するためにどのように遊べばよいかを考えながら遊んでいる。 <p style="text-align: center;"><思・表>（行動・振り返りカード）</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びながら思うように水を出すには、どんなふうにしたらよいかのことに気付くことができる。 <p style="text-align: center;"><気付き>（発言・振り返りカード）</p>
1	<ul style="list-style-type: none"> 色水遊びをし、半紙を染めたり、色水で絵を描いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 色水遊びに興味をもって、楽しんで活動しようとしている。<関・意・態>（発言）

せいかつかでお世話になっている
2ねんせいにあげようかな。
なにをつくったらよろこんでくれる
かな。

おもしろいかたちにな
ったよ。

てつぼうをねらってやってみよ
う。どっちがさきにあたるか
きょうそうだよ。

1	・押し花、たたき染めをする。	・押し花、たたき染めに興味をもって、楽しんで活動しようとしている。<関・意・態> (発言)
2	・色水遊びでできた作品、押し花、たたき染めを活用して小物をつくる。  <p data-bbox="319 782 654 895">たたき染めを利用したランチマット</p>  <p data-bbox="710 782 1029 895">色水で染めた紙を使ったしおり</p>  <p data-bbox="1141 782 1380 895">押し花を利用したネックレス</p>	・どんなものをつくるかを考えながらつくっている。 <思・表> (行動・発言・作品)

5. 本時の指導 (2・3/9)



(1) 目標

- ・シャボン玉に興味をもって進んで遊ぼうとする。(生活科への関心・意欲・態度)
- ・用具や吹き方を工夫することで、できるシャボン玉が違うことに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(2) 仮説との関わり

まずは、どんなふうになるかやってみたいというわくわくした思いを大切に、自由を楽しむ時間をとる。何度も遊ぶ中で、自然にいろいろなことを試して気付いたり、友達の楽しく遊ぶ様子が目に入ってきたりして、こんな遊びをしたいという願いがもてるのではないかと考えた。体験と表現を繰り返すことができるように学習の流れを組んだ。

(3) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料
3	1 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> しゃぼんだまのたのしいあそびかたをみつけよう。 </div>		
3	2 シャボン玉で遊ぶ時の注意を確認する。 ・液が目に入らないようにする。 ・液を飲み込まないようにする。 ・道具を安全に使う。	・安全に気を付けて楽しめるように注意を確認する。	
15	3 シャボン玉で遊ぶ。<仮説1①自由な活動時間> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> モールでもできるんだね。たくさんできたよ。 </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ダンボールでやると、しゃぼんだまがながってでてきたよ。 </div> <div style="text-align: center;">  </div>	・試してみたい道具を自由に試すように伝える。 ・児童の思考や気付きにつながる発言を全体に広める。 ○シャボン玉に興味をもって進んで遊ぼうとしているか。 <関・意・態>	・ストロー ・段ボール ・モール ・トイレットペーパーの芯 ・うちわの骨 ・牛乳パック ・紙コップ
5	4 これまでの遊びを振り返り、友達に伝え合う。 <仮説2 ②グループでの振り返り>	・友達の発言を聞く姿勢も指導する。	・小黒板 ・ネーム

・生活班の友達と伝え合う。

ぼくもやってみたよ。
たくさんできたね。

うちわをふるときれ
いだったよ。



1 4 5 次の遊びのめあてを確認する。

<仮説1 ②個人の課題の一覧>

- ・一人一人に聞く。
- ・同じ思いの人が一緒に遊べるようにグループを組む。



2 0 6 シャボン玉で遊ぶ。

<仮説1 ③グループでの話し合い>

- ・グループでよい方法を考えてから取り組む

ぎゅうにゆうバック
をかさねてみたら、
おおきいのできる
んじゃないかな。



1 0 7 使った道具を片付ける。

2 5 8 活動を振り返り、ワークシートに記入する。

<仮説2 ②色別カード>

- ・気付いたことを発表する。
- ・色別カードを提示して、発表を聞く。

・友達の発言から、自分もやってみたいと思うことはないかを考えながら聞かせる。

・友達の願いに共感的な態度で聞くように配慮する。

・ネームマグネットを小黒板に貼ってグループ分けをし、自分のグループやめあてが視覚的にもわかるようにする。

・交流の中でめあてが達成できるように、うまくいかない場合は友達や教師に聞くように言う。

○自分のめあてを達成するためにどのようにつくればよいかを考えながらつくっているか。<思・表>

・片付けのときにも目にシャボン液が入らないように気を付けさせる。

・気付いたことを全体に広める。

・色別カードを掲示することで、友達の意見

マグネット

・色別カード

		に対する自分の考えを 示せるようにする。 ○遊びながら用具や吹 き方を工夫すること で、できるシャボン玉 が違うことに気付くこ とができる。<気付き>	
--	--	---	--

6. 考察

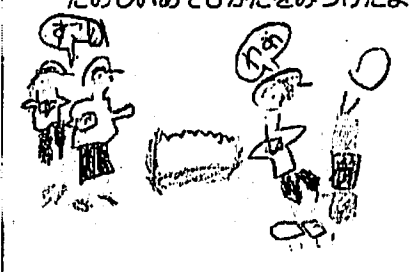
<A児>

<B児>

しゃぼんだまあそび

①が ②に

たのしいあそびかたをみつけたよ!



ぎゅうにゆうパックで3こかさねたら
 おおきいしゃぼんだまができました。
 だいせいこう。(中略) みんながいなかつ
 たらできなかつたかもしれません。

まんぞくメーター ☆☆☆☆☆


◎ なかまときょうりなくしたら、すくいいあそびができた。

ぎゅうにゆうパックで3こかさねたら、おおきいしゃぼんだまができました。だいせいこう。(中略) みんながいなかつたらできなかつたかもしれません。

しゃぼんだまあそび

①が ②に

たのしいあそびかたをみつけたよ!



ストローでふうってやったら、(ともだ
 ちがいていたように)ほんとうにちい
 さいのができた。
 ※もっと活動をしたかったという思いか
 ら「まんぞくメーター」は3。

まんぞくメーター ☆☆☆☆☆

◎ ストローでふうってやったら、(ともだちがいたように)ほんとうにちいさいのができた。

ストローでふうってやったら、(ともだちがいていたように)ほんとうにちいさいのができた。 ※もっと活動をしたかったという思いから「まんぞくメーター」は3。

A児は、次の遊びのめあてを決めるときに、大きいシャボン玉が作りたいたいという願いをもち、同じ願いの友達とグループになった。そこで友達とどのようにしたら大きくつくれるのかを相談した結果、牛乳パックを3つつなげたらよいのではないかと考えてやってみたところ、うまくいった。友達と活動をしたらよい考えが浮かんで成功したことから、友達と交流することに良さに気付くこともできた。B児は、友達のしていた遊びを試したら本当に聞いていた通りにできたことに喜びを感じている。

活動の途中で友達との交流を入れたり、同じ願いをもつ児童同士でグループを組んで話し合わせたりしたことで、児童の願いを実現させることができ、深い学びにつながった。

7. 授業実践②【2年生】

1. 小単元名 生きているってすごい！（生きものはかせになろう！）

2. 小単元について

（1）単元観

本単元は、学習指導要領の内容

- （5）身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらの違いや特徴を見付けることができ，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わることに関心をもつとともに，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。
- （7）動物を飼ったり植物を育てたりして，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付き，生き物への親しみをもち，大切にすることができるようにする。
- （9）自分自身の成長を振り返り，多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かり，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに，これからの成長の願いをもって，意欲的に生活することができるようにする。

を受けて設定したものである。

この単元では，子どもが継続的に生き物を飼育するなかで得る，身近な生き物への興味・関心や気付きを通して，生命を大切にすることができるようにすることを目指している。日常生活の中で自然や生命とふれ合う機会が乏しくなっている子どもにとっては，飼育活動を通し，生き物と繰り返し関わることは，生き物への親しみをもち，生命の尊さを実感するために大きな意義がある。生き物を教室で飼育し，生き物を観察するという活動を通して，生命の大切さに気付き，飼育する生き物にとって必要なことを調べたり，より棲みやすい環境にするためにすみかを工夫して作ったりするなど，継続的な飼育をすることで生き物への関わり方も学ぶことができる単元である。

（2）指導観

本単元では，生き物の飼育をするための環境を調べて，生き物を観察しながら，生き物に合わせて世話をする活動を行う。そして，最終的な言語活動として1年生を招待して，学習してきたことを発信させる場を設定する。その活動を行うことで，生き物を大切に自分，気付きを広められる自分，といった自分自身の変化に関心をもつようになる。また，生き物について調べ，それを実際に確かめる活動を行うことにより，生き物に関する気付きを得られるようになる。さらに，振り返り活動を活発に行うことで，友達の気付きから次時のめあてをもつという活動もさせる。そのことにより，より生き物への興味・関心が深まると考える。

<仮説との関わり>

今回の単元は全8時間だが、体験と表現が繰り返される部分に注目した。

「生きものをたいせつにしよう」(3・4/8時間)

体験1 **課題を持つための工夫** … 仮説1

「何についてしらべようかな。」

表現1 **振り返る時間の確保・次の課題の確認** … 仮説1・2

「分かったことをつたえよう。」「つぎはこんなことをしらべてみたいな。」

体験2 **課題を持つための工夫** … 仮説1

「しらべ足りないことは何かな。」「しらべたことをやってみよう。」


表現2 **振り返る時間の確保** … 仮説2

「気づいたことをまとめよう。」

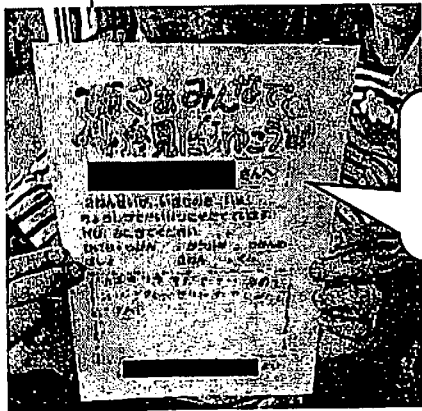
3. 単元の目標

- 生き物とそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、生き物に親しんだり、大切にしたりしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- 生き物が自然のなかでは、どのような場所に住んだり育ったりしていたのか振り返ったり、調べたりして、生き物が好む環境を作るなどし、適切にかかわっている。 (思考・表現)
- 生き物は生命をもっていることや成長していること、生き物と自分との関わりに気付いている。 (気付き)

4. 指導計画 (8時間扱い)

時数	主な学習活動	評価規準 (観点)
1	<p>「どないいきものがいるかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の敷地内で梅雨の時期の自然探しを通して、生き物を見つけ、教え合う。 ・学校の外にはどんな生き物がいるか予想し、見つけに行く予定を立てる。(保護者と見つけに行く。) 	<p>・身の回りの生き物に関心をもち、自然を見つけに行こうとしている。</p> <p><関・意・態> (発言・行動)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>井野っ子山にダンゴムシがいっぱいいたよ!</p> </div>

1	<p>「生きものを見つけよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の中や外にはどんな生き物がいたか教え合う。 ・見つけた生き物をどうするか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた生き物をどのようにするか意見を出している。 <p>＜思・表＞（発言・振り返りカード）</p>
2 (本時)	<p>「生きものを大切にしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して飼うために必要なえさやすみかについて、どのように調べたらよいか話し合う。 ・図書資料やインターネット、見つけた場所の様子から生き物が住みやすい環境について調べる。 ・調べたことをもとに継続して世話をしたり、様子を観察したりしながら、大切に生き物を飼う。 ・生き物を飼育する中で気付いたことは、「生きものはっけんじょうほうコーナー」に載せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の飼育に関心をもち、継続的に世話をしたり、観察しようとしていたりしている。 <p>＜関・意・態＞（発言・行動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話の仕方について、調べたり、相談したりしながら考え、工夫しながら世話をしている。 <p>＜思・表＞（発言・行動・記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の動きや形状などの特徴、変化や成長の様子、生命をもっていることに気付くとともに、生き物にはそれぞれ適した世話の仕方があることに気付いている。 <p>＜気付き＞（発言・振り返りカード）</p>
2	<p>「生きものはかせのはっぴょうかいをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を飼育する中での気付きを紙に絵でまとめ、友達に発表する。 ・自分の飼育した生き物の飼育の仕方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめる方法を工夫し、より伝わりやすくしている。 <p>＜思・表＞（発表・記録）</p>
2	<p>「生きものランドをひらこう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで飼育した中での気付きをもとに、1年生に伝えたいことをまとめる。 ・1年生を招待して、自分たちが飼育している生き物のことを分かりやすく伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が生き物を飼育してきたことを、1年生に伝えようとしている。 <p>＜関・意・態＞（発言・行動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を飼育してきたことを振り返り、伝える相手に応じた方法を考えて、伝え方を工夫している。 <p>＜思・表＞（発言・行動・記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったり、説明できたりするようになった自分の成長に気付いている。 <p>＜気付き＞（発言・振り返りカード）</p>



しょうたいじょうを書いたよ！

クワガタはこんなエサを食べるんだよ！



そうなんだ！

5. 本時の指導 (3・4/8)

(1) 目標

- 生き物の飼育に関心を持ち、継続的に世話をしたり、観察しようとしたりしている。(関心・意欲・態度)
- 生き物の世話の仕方について、調べたり、相談したりしながら考え、工夫しながら世話をしている。(思考・表現)
- 生き物の動きや形状などの特徴、変化や成長の様子、生命をもっていることに気付くとともに、生き物にはそれぞれ適した世話の仕方があることに気付いている。(気付き)

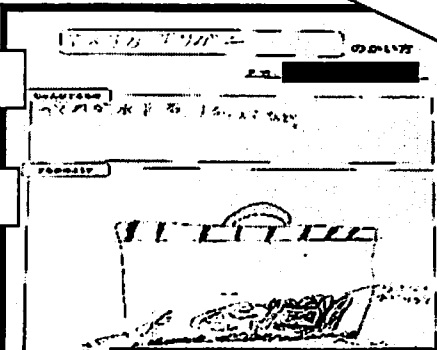
(2) 仮説との関わり

本時は、自分のめあてに合わせて生き物について調べ、調べた通りになるのかを実際に確かめる時間である。調べたことを友達と伝え合うことで、生き物の生態に関しての気付きを広め、そこから新たな気付きにつなげることができると思う。

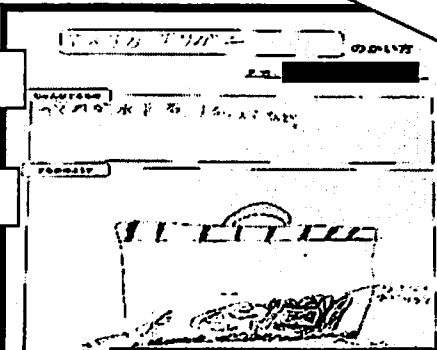
(3) 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援 ○評価	資料
7	<p>1 学習のめあてを決める。</p> <p><u><仮説1ー② 個人の課題の記入></u></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生きもののすみかやえさをしらべよう。</p> <p>【個人のめあて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニのじょうほうをしらべよう。 ・クワガタのじょうほうをしらべよう。 ・バッタのたべものをしらべよう。 	<p>・学級全体の本時のめあては大まかに決め、細かな個人のめあてを振り返りカードに書くように伝える。</p>	<p>・振り返りカード</p>
25	<p>2 パソコンを使って、インターネット資料で調べる。</p> <p><u><仮説1ー③ ICT支援員とともにインターネットの活用></u></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・じぶんがしらべようとしている生きもののページがあったよ。 ・えさのことが書いてあった。 ・すみかのことが書いてあった。 ・オスとメスのちがいが書かれていたよ。 ・ちゅういすることが書かれていた。 </div>	<p>・ICT支援員の方に2年生でも十分に情報を得られるサイトを準備してもらい、資料を探しやすくする。</p>	<p>・ワークシート</p>

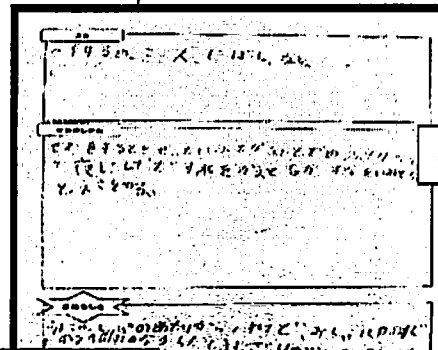
じゅんぴするもの



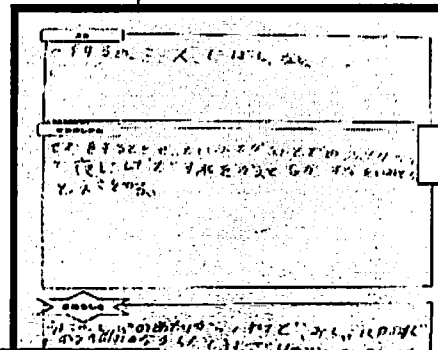
すみかのようす



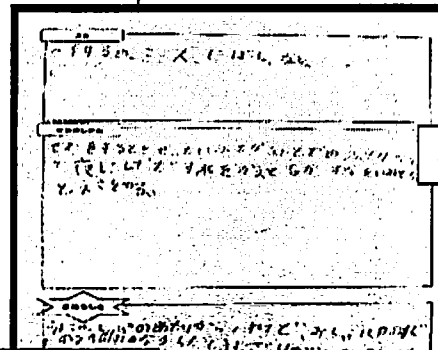
えさ



せわのしかた



まめちしき



調べたことを書くワークシート

3 本時の活動を振り返り、カードに記入する。

<仮説2—① 毎時間の記録を1枚にまとめたカード>

・今日は、自分の生きものをしらべました。いろんなことが書けました。たとえば、土がかわいたら少しぬらすとかです。(こんなことをおもったよ！)

じょうほうをもとに、すこし土をぬらしてみよう。つぎは本でしらべる。(つぎはどうする。)

生きものはかぜにならぬ 6/20 名まえ []

めあて [アワグサのじょうほうをしらべよう。]

今日のまんぞくメーター [(●●●●○)]

<こんなことを思ったよ！>
 じょうほうによいもの、しらべました。いろんなことが書けました。たとえば「アワグサがかわいたらすこしぬらすか」をしらべてたのしかたです。

<つぎはどうする？>
 じょうほうをもとに水をついてぬらす。つぎは本でしらべる。

・はっけんしたことはえさです。バッタのえさはエノコログサとオビシバとススキです。うまくいったところは、えさをちゃんとしらべられたことです。(こんなことをおもったよ！)

えさのはこを作って、バッタがたべるえさをいれてあげたいです。あと、本を読んでもっとしりたいです。(つぎはどうする。)

生きものはかぜにならぬ 6/20 名まえ []

めあて [バッタのたべものをしらべよう。]

今日のまんぞくメーター [(●●●●○)]

<こんなことを思ったよ！>
 はっけんしたことは、エサです。バッタのエサは、エノコログサとオビシバとススキです。うまくいったところは、えさをちゃんとしらべられたことです。

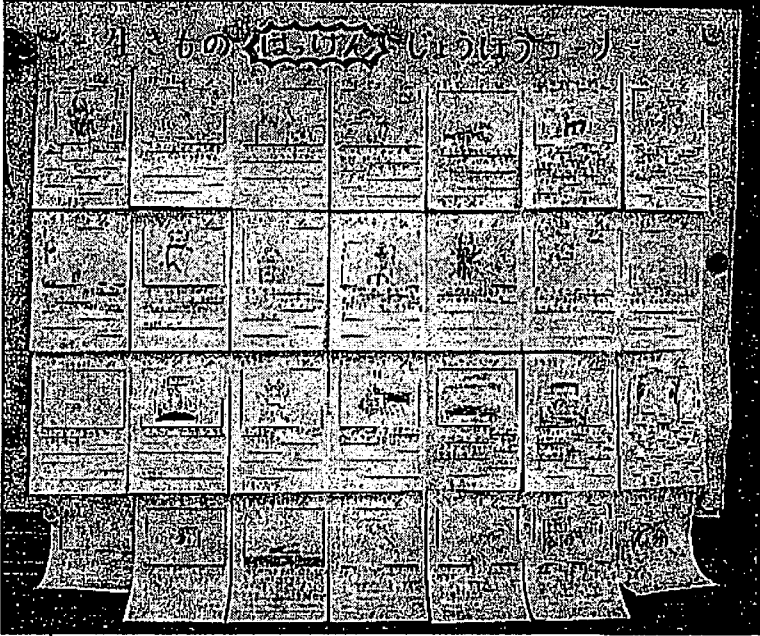
<つぎはどうする？>
 エサのはこを作ってバッタがたべるエサをいれてあげたいです。あと本を読んでもっとしりたいです。

・本時では、どんなことが調べられて、どんなことが調べられなかったのか書くように助言する。

○生き物の飼育に関心をもち、継続的に世話をしたり、観察しようとしていたりしているか。

<関・意・態> (発言・行動)

・振り返りカード

3	<p>4 振り返りを友達と伝え合い、次時の活動に見通しをもつ。<仮説2-② 全体での振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の前で発表をする。 ・自分が次時に行う活動について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次のめあてがもてるように、友達の発表を聞いて、自分が次時にやっておくとよいことについて考えるように伝える。 	
3	<p>1 本時までの気づきを発表する。 <仮説1-① 発見情報カード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでは生きている虫をたべると書いてあったけど、こんちゅうゼリーを入れてみたらたべた。 ・虫の足の数を数えてみたら6本だった。 ・草のくきをかじったあとがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時と本時の間に気付いたことを発表させることで、友達の気づきから新たな観点に着目できるようにする。 ・今後も、発見情報カードは休み時間などを利用して、気付いたことがあればその都度自由に記入し、掲示することを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発見カード
7	<p>2 学習のめあてを決める。 <仮説1-② 個人の課題の記入></p> <p>生きもののすみかやえさをもっとしらべてためそう。</p> <p>【個人のめあて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ザリガニのうごきをしろ。 ・いきものをかんさつしよう。 ・虫の体のようすをしらべよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発見情報カードの発表を聞いて考えたことや、前時の振り返りカードに記入した次時にやることをもとに、個人のめあてを決めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード

20

3 図書資料で調べたり、調べたことを実践したりする。

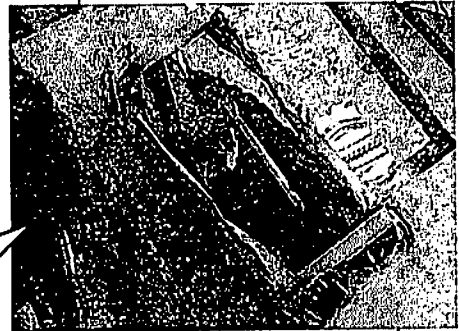
<仮説1-③ 調べ学習に向けての資料の用意>

<仮説1-① 発見情報カード>

・オスとメスのちがいが分かったから、自分の虫がどちらなのかたしかめよう。



・おちばをたべると書いてあったから、いれてみたよ。



・資料で調べたことを実践し、実際にそうなるのかを確かめるよう声掛けをする。

・新たな発見があったら、「発見情報カード」に記入し、掲示する。

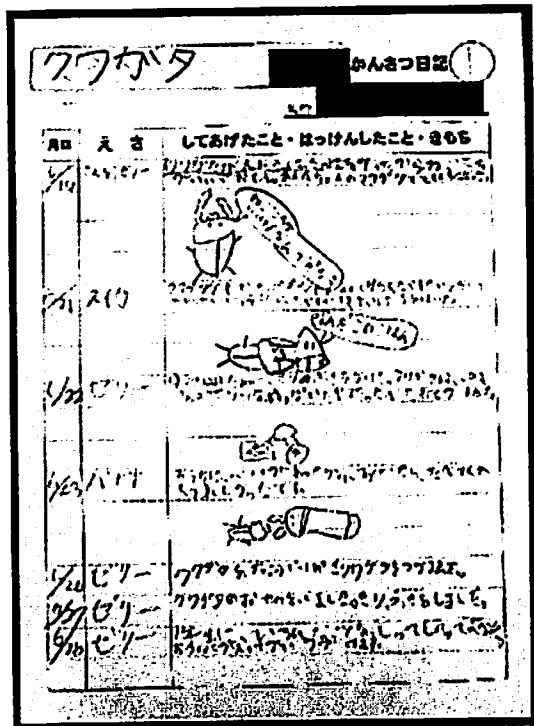
・図書資料
(30冊)

・情報発見カード

5

4 今日の生き物の様子を観察日記に書く。

- ・ザリガニは、たまに口からいきをだすって本当だ。
- ・クワガタは、本当に木の下が大すきだったよ。
- ・クワガタは、本でもパソコンでもえさにすいかはのっていないのに、あげたらたべたよ。



・観察日記に書く観点を示して、記入しやすくする。

- ・えさ
- ・してあげたこと
- ・発見したこと
- ・自分の気持ち
- ・生き物の気持ち(想像) など

・観察日記

5 本時の活動を振り返る。

<仮説2-① 毎時間の記録を1枚にまとめたカード>

<仮説2-① 振り返りの観点の掲示>

「ふりかえり」

- はっけんしたこと
- ともだちのこと
- 上手くいったこと
- こまったこと
- つぎにやりたいこと

★目が上手くいったのが、目がこまったのかくわしくさう！

・今日はクワガタのお世話をしました。何をしたかという、きりふきをしたのと、ゼリーがなくなったからかえたことです。クワガタのためにするとたのしかったです。

生きたクワガタの世話 1/2 目録 ()

ゆめて 7777のお世話日記

今日のまんぞくメーター ○○○○

<こんなこと思ったよ！>

きりふき、7777のお世話をしたら、ゼリーがなくなったからかえたこと、クワガタのためにするとたのしかったです。

<つぎはどうする？>

7777のきりふきをしらへる。

・○○さんが土をしかないほうがいいよって言っていたので、もちかえりをします。(持ち帰って土を取り除きます。)

いせのいせにならう 1/2 目録 ()

ゆめて 7777のお世話日記

今日のまんぞくメーター ○○○○

<こんなこと思ったよ！>

○○さんが土をしかないほうがいいよって言っていたので、もちかえりをします。

<つぎはどうする？>

きりふきはもちかえりをしてあげたよっていいです。

4 振り返りを友達と伝え合う。

<仮説2-② 全体での振り返り>

・全体の前で発表をする。

・振り返りの観点を明確にして、本時の活動に合わせたことを記入できるようにする。

・振り返りカード
・振り返りの観点

・本時の振り返りを発表して共有しあった後、友達の振り返りを参考にしながら、次時で行いたいことをさらに書くように伝える。
○生き物の世話の仕方について、調べたり、相談したりしながら考え、工夫しながら世話をしているか。

<思・表>

(発言・行動・記録)

○生き物の動きや形状などの特徴、変化や成長の様子、生命をもっていることに気付くとともに、生き物にはそれぞれ適した世話の仕方があることに気付いているか。<気づき>

(発言・振り返りカード)

・気付いたことを共有させる。

6. 考察

<仮説1>について

A児

いきものはかせになが。 6/20 名まえ ()

めあて バッタのたてものをしらべよう。

今日のまんぞくメーター (●●●●○)

<こんなこと思ったよ!>
はっけんしたことは、エサです。バッタのエサは、エロ
ロクサとオビツバとススキです。うまかったのは、
サをちねとしらべたことだよ。

<つぎはどうする?>
エサのはこをつく。バッタがたてるエサをりか
てあげたいです。本をよんで、も、とりたいです。

B児

生物博士になが。 6/20 名まえ ()

めあて パソコンでエサの調べ方をしらべよう。

今日のまんぞくメーター (●●●●○)

<こんなこと思ったよ!>
パソコンでエサの調べ方がよくわかる。調べ方
をよんで、調べ方をしらべよう。調べ方
をよんで、調べ方をしらべよう。

<つぎはどうする?>
これは、おもしろい。調べ方をしらべよう。
調べ方は本で調べよう。

パソコン室でインターネットを利用して生き物について調べる、ということはクラスで大まかに共通理解し、それを踏まえて児童一人ひとりが具体的にどのように活動するかをめあてに書いている。

また、利用する資料（インターネットや図書）も児童から挙げたものを準備して使うことで、児童が学習の仕方を見通すことができ、より主体的な学習につながった。

C児

生持ものばかせいろう 名まえ ()

めあて すみかたせしめよう

今日のまんぞくメーター ●●●●○

<こんなことを思ったよ！>

今日やる日持は、いんのかのりの人と決まってる

<つぎはどうする？>

ハッパのどいりいどいりかたせしめよう

生持ものばかせいろう 名まえ ()

めあて かみかたを一年生に見せよう

今日のまんぞくメーター ●●●●○

<こんなことを思ったよ！>

はやく一年生に見せたい

<つぎはどうする？>

ハッパのどいりいどいりかたせしめよう

生持ものばかせいろう 名まえ ()

めあて 生持ものランドのせつ明をかえよう

今日のまんぞくメーター ●●●●○

<こんなことを思ったよ！>

せつ明をかえるには、生持ものランドのせつ明をかえよう

いじないかたせしめよう

<つぎはどうする？>

生持ものランドのせつ明をかえよう

どかたせしめよう

生持ものばかせいろう 名まえ ()

めあて 新しい年持のせつ明をかえよう

今日のまんぞくメーター ●●●●○

<こんなことを思ったよ！>

せつ明をかえるのは、せつ明をかえよう

ハッパのどいりいどいりかたせしめよう

一年生にせつ明をかえよう

ハッパのどいりいどいりかたせしめよう



本時の中で、どのようなことをしたのかがくこんなことを思ったよ！>の中で書かれていない。振り返りの観点を利用して書いていない。

5時間目の方ではくこんなことを思ったよ！>の方にもっとやらなければいけない努力点が書けた。6時間目の方ではしっかりと本時の振り返りが「上手くいったこと」の観点で書かれている。

初めの方では、<こんなことを思ったよ！>という授業の中で気が付いたことを書く欄に、具体的なことを書くことができていなかったが、授業の途中から「振り返りの観点」を提示したことにより、より具体的に書くことができるようになった。

「ふりかえり」

- はっけんしたこと
- ともだちのこと
- 上手くいったこと
- こまったこと
- つぎにやりたいこと

★回が上手くいったか、回がこまったか、わしく書こう！



生きもののかせがかわって。

2ねん 2くみ ()

わたしは、生きものをかうまえには、
虫がきらいだったけど、生き
ものをかってからになつた
らすきになりました。

しんじいにかいてやる。生きもののかせがかわって、生きものを知ることができて、すきになれたのさ。



生きもののかせになろうがかわって

2ねん 2くみ ()

生きものをかう前はどつても
いいと思つたけど、生きものラン
ドがかわつたらいいのちのたい
せつさがわかりました。
どつちうでしんでしまつたのが
かなしかつたです。

いろいろかいてやる。生きもののかせがかわって、生きものを知ることができて、すきになれたのさ。



生きもののかせになろうがかわって

2ねん 2くみ ()

いままで虫は三ひきぐらいいかきあ
なかつたけれど、20ひき30ひきとさ
れるようになってきた。まへの
コウバツタがしんでしまつたけれど、ま
まがふたてとはとてもよかったです。
やっぱり虫がまなんでもいのちはい
せつだとおもひました。

しんじい 虫もかいてやる。いろいろの大切さを知ることができて、すきになれたのさ。



生きもののかせになろうがかわって

2ねん 2くみ ()

前の自分は虫が大すきで
いまでも虫が大すきで、
よくわかるけれど、わから
ないこともあつておべんき
うになつてうれしかつたです。

いろいろかいてやる。生きもののかせがかわって、生きものを知ることができて、すきになれたのさ。

学習後の振り返りからは、「生き物に興味があまりなかつたが、触れるようになったり、知識が増えたりして、興味を持てた。」ということに気付いたり、飼っていた生き物が死んでしまったという出来事を通して、命の大切さに気付いたりしたことが読み取れる。振り返りカードの方にも、「1年生に、調べたり発見したりしたことを説明できた。」「1年生から感想コーナーで、「〇〇くんのせつめいがよくわかりました。」と言われてうれしかった。」など書かれており、気づきを広められる自分に気付けた児童もいた。新たな気づきがあり、深い学びにつながったと言える。

8. 成果と課題

仮説 1

個人で課題をもたせることにより、実現するための方法を見出すことができ、主体的に学習活動に取り組むだろう。

<成果>

- 初めに自由に活動をさせたことで、様々なことを試すことができ、願いをもつきっかけになった。
- 児童の願いを受けて、ともに単元計画を立てることにより、自分の願いが実現できると感じさせることができ、意欲が高まった。
- 個人の目的にあうように多種多様な資料を用意したことによって、めあてを達成するためのよい手立てとなった。
- ICTの支援員にサポートしてもらいながら、インターネットを活用して調べたことで、低学年児童が達成感を得られるサイトで調べることができた。

<課題>

- 一人一人の思いだけに注目せず、個人の思いや願いを学級全体のめあてとして、みんなで調べるという流れにしても主体的な学習につなげることができたのではないか。
- 単元の中で、個人のめあてをもたせる場面と全体でめあてをもたせる場面を使いわけてもよかったのではないか。
- 限られた時間や環境の中で、個人の思いや願いを実現させていくのは難しい場面があった。
- 教師の願いと、児童の願いが同じ方向になるように配慮して、めあてをもたせるのが難しかった。

仮説 2

活動を振り返り、互いに共有することでさらなる気づきが生まれ、深い学びにつながるだろう。

<成果>

- 「まんぞくメーター」の数値が低い児童に理由を聞くことで、次のめあてや新しい課題が見つかった。
- 振り返りカードの観点を提示したことによって、迷わずに記入できる児童が多くいた。
- 毎時間の振り返りを1枚にまとめて記入できるようにしたことで、前時の振り返りから本時のめあてを立てることができた。
- グループで振り返りをしたり、次のめあての実現のために話し合ったりする場面をつくることで、新たな気づきがあった。
- 色別カードを使うことで、友達の発表を自分自身の振り返りにも生かすことができた。気づきを広げたり、確認したりすることができた。

新たな気づき



深い学び

<課題>

- 十分な体験時間を取り，それに加えて振り返りカードを記入させたり，全体に広めたりする時間の確保が難しかった。
- 文を書くことに不慣れな1年生に，個人の振り返りの記録を残すことはできなかった。
- どのような振り返りカードを使うとよいのかを，さらに研究していく必要がある。

9. 参考文献

・『生活・総合「深い学び」のカリキュラム・デザイン』 編者：國學院大學教授 田村学

<2年生の学習で使用した資料>

- ・『ザリガニ観察ブック』 著者：小田英智
- ・『カタツムリ観察ブック』 著者：小田英智
- ・『近所の虫の飼いかた1』 著者：海野和男
- ・『近所の虫の飼いかた2』 著者：海野和男
- ・『ザリガニのひみつ』 著者：今泉陽子

他25冊

平成30年度 第68次印旛地区教育研修会

生活科分科会 提案資料

県・印旛地区生活科テーマ

「子どもが自ら学び共に生きる力を育む生活科の創造」

～主体的学び 対話的学び 深い学び 社会に開かれた教育課程～

研究主題

自ら学び，表現する児童の育成

～人とのかかわりの場の工夫を通して～



平成30年8月28日

第4部会 八街市立川上小学校

美濃輪 富子

椎名 泉

刀禰 悦宏

I 研究主題

自ら学び、表現する児童の育成

～人とのかかわりの場の工夫を通して～

II 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」とあり、その資質・能力を以下のように示している。

(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらのかかわり等に気付くとともに、生活上必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

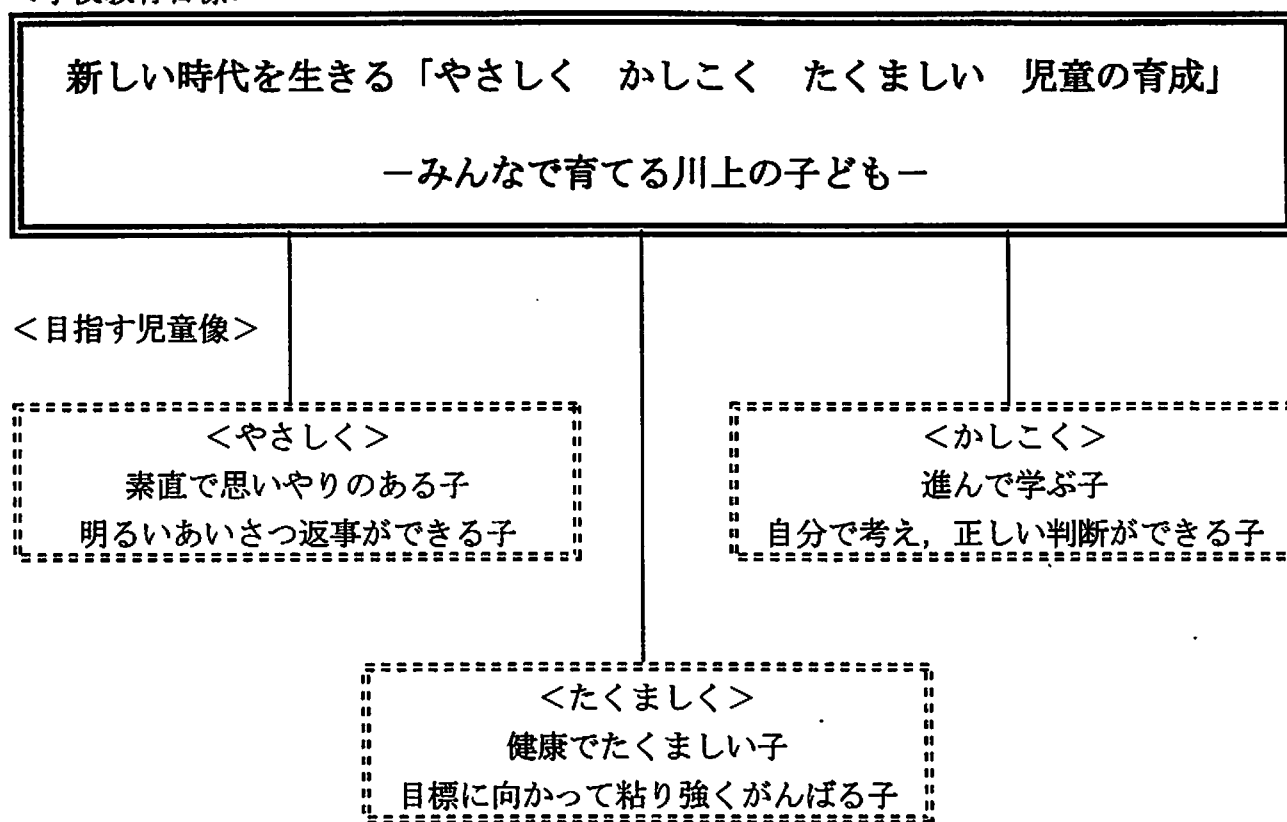
「第1学年及び第2学年」の目標の中には、(1)「地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにする」(3)「身近な人々、社会及び自然とかかわりを深めることを通して」とあるように、児童が地域や身近な人々と「かかわり」「愛着をもつ」ことが重視されている。児童が活動を通して、地域の人々や場所のよさに気付くとともに、それらを大切にす気持ちや地域に積極的にかかわろうとする気持ちを、一層強くもつようにしていくことが大切である。

また、「生きる力を育む」ことを目指していることは引き続き継承されており、総則の中で「思考力、判断力、表現力等を育成すること」と示されている。そこで、それらを踏まえて、人とかかわりの場の工夫を通して自ら学び、表現する児童の育成を目指すため本主題を設定した。

また、今回の改定では、「合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。」「幼小の円滑な接続や教科等横断的な学習の重視」についても記載されている。そこで合科的・関連的な指導も取り入れながら、幼小交流から引き続き、1・2年生の交流が円滑に進められるように計画・実践していきたいと考え本主題を設定した。

(2) 学校教育目標と目指す児童像から

<学校教育目標>



上のような学校教育目標設定の背景には、学習指導要領が目指す「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」としての「生きる力」の育成がある。「進んで学ぶ子」を目指すには、主体的な学びの姿勢が必要である。そこで、地域の人々や異校種、異学年の人とかかわりながら、自ら学ぶことができるようにしていくことで、教育目標に迫ることができると考えた。

(3) 児童の実態から

本校は創立145年の八街市の中で最も古い伝統校である。八街市のほぼ南に位置し、畑と水田の農地に囲まれた自然豊かな農業地域であるが、サラリーマン家庭が多く、農業に従事している保護者は少ない。教育後援会が小学校のバックアップをしてくださるなど、学校教育への関心は高い。近年の少子化に伴い、1・2年が単学級になったため、全校で12学級251名の中規模校である。また、川上幼稚園との交流は、平成15年から続いており、教育活動の中に根付いている。

本校児童は、全体的に明るく穏やかで学校生活のルールを守ろうとしており、縦割り活動の遊びも活発である。学習面については、学びの根本にある関心・意欲は比較的高いが、思考を要する課題解決やそれに伴う表現力については課題がある。まず、「表現したい」という意欲をもたせ、表現力につなげていく手立てが必要である。そこで、生活科の学習の中で人とかかわりを取り入れた活動や体験の一層の充実を図ることで気付きの質が高まり、「表現したい」という意欲の向上につながると考えた。

Ⅲ 研究仮説と手立て

<仮説1>

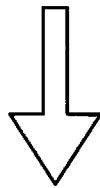
人とのかかわりを重視した活動を多く取り入れれば、興味関心が高まり、主体的に取り組む児童が育つであろう。

<「主体的に取り組む」とは>

「主体的」…自分の意志、判断に基づいて行動するさま。

…何のためにやるのか目的を掲げ、それを満たすために行動すること。

「主体的に取り組む」とは、学習に積極的に取り組むだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度のこと。



相手意識をもち、繰り返し活動、体験する場の工夫が必要

<手立て>

①人とのかかわりを重視した活動の工夫

- ・地域の人々とのかかわり（町探検、畑の先生、アサガオを通じた交流等）
- ・幼稚園の園児とのかかわり（年3回の交流、アサガオを通じた交流）
- ・他学年の児童とのかかわり（学校探検、アサガオの種まき、町探検、各発表会への招待）
- ・保護者とのかかわり（町探検、サラダパーティー、各発表会への招待）

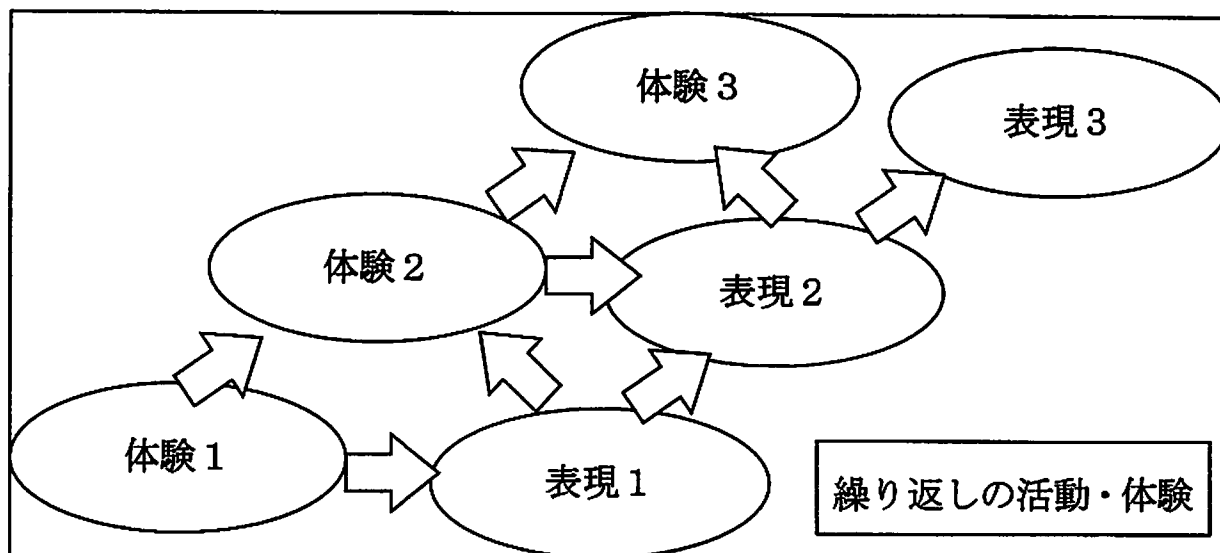
②相手意識をもたせる工夫

- ・自己紹介
- ・写真の掲示（名前入り）
- ・年間を通したペアの設定（1・2年生のペアと幼小交流のペア）

<仮説2>

一人一人の気づきを伝え合えるような指導の工夫をすれば、気づきの質が高まり、表現する力が身に付くであろう。

<「気づきの質の高まり」とは>



<「気づき」とは>

- ①対象に対する一人一人の認識
- ②児童の主体的な活動によって生まれる
- ③知的な側面だけでなく、情意的な側面も含まれる
- ④次の自発的な活動を誘発する

<手立て>

①伝え合い、交流する活動の工夫

- ・発見カードの常時掲示による児童相互の気づき
- ・友達との気づきの共有や個々の気づきを関連付ける交流の場の設定
(タブレットや写真, ビデオの活用等)
- ・思考ツールを活用した情報交換や思考の可視化
- ・目的意識, 相手意識をもった学習計画 ・教科を超えた指導計画の工夫

②表現活動の工夫

- ・気づきの観点の明確化 (「はっけんアイテム」(五感を使った気づき)の活用・発見カード(自分自身への気づき・目的意識の明確化)の工夫)
- ・表現活動の仕方の提示 (言葉・身体表現・絵・紙芝居・新聞・劇・文等)
- ・表現の言葉の例示
 - ・「～みたいに」「～ぐらい」(比喩)
 - ・「同じところは～」「違うところは～」(相違点)
 - ・「数字で表すと～」「形は～」「色は～」等




IV 実践例 I


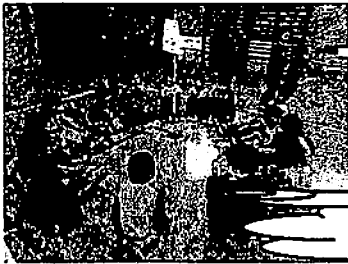
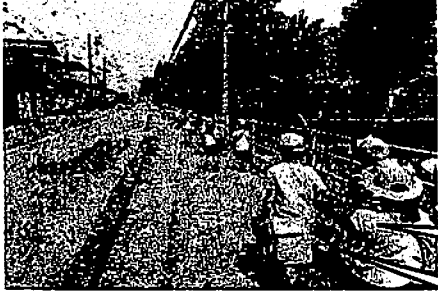

(1) 単元名 春はっけん (2 学年)

(2) 単元の目標

- ・ 2 年生になった喜びを、家族や友達と感じ取ろうとしている。(生活への関心・意欲・態度)
- ・ 栽培や校庭及び通学路の様子から、春を感じるとともに、自然に親しむことができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- ・ 1 年生に親切にするとともに、自分の成長を感じることができる。
(身近な環境や自分についての気付き)
- ・ 通学路や学区を歩き、人々の暮らしの様子や自然の変化、安全を守っている施設や人々に気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(3) 活動の実践 (16 時間扱い)

月	時数	・学習活動 ○支援	◎評価 ☆仮説
4	4	<p>1 ねんせいをむかえるかいをひらくじゅんぴをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会の内容や準備するものについて話し合う。 ・ プレゼントを作成したり、レクリエーションのルールについて話し合ったりする。 ・ 1 年生に学校を案内するために、特別教室を中心に、予察する。 <p>○「自分が 1 年生だったらどのような 1 年生を迎える会を開いてほしいか」を考えさせて、子ども達の願いを明確にさせる。</p> <p>ぼくが 1 年生なら、この青くて丸いボールについて知りたいから、調べておこう。</p>	<p>☆仮説 1 ①目的意識・相手意識</p>  <p>◎どのようにしたら 1 年生を楽しませることができるかを考え、会の準備をすることができる。(思考・表現)</p>
	1	<p>① 1 ねんせいとペアをつかってじこしょうかいをしよう。</p> <p>② 1 ねんせいにアサガオのたねのまき方を教えてあげよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校探検のペアを作り、互いに自己紹介をして顔と名前を覚える。 ・ 1 年生にアサガオの種の蒔き方を教える。 <p>1 年生はずかしいかな？手本になって、話しやすくしてあげなくっちゃ。</p>  <p>こうやってまくと、とてもきれいなアサガオが咲くよ。水やり頑張ってね。</p>	<p>☆仮説 1 ②自己紹介</p>  <p>資料 1, 2</p>

5	3	<p>1ねんせいをむかえるかいをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生に学校案内をする。  <ul style="list-style-type: none"> プレゼントを渡したり、レクリエーションをしたりする。 	<p>☆仮説1 ①他学年とのかかわり ◎1年生に親切にする中で、1年前の自分を思い出し、成長に気付くことができる。(気付き)</p> <p>1年生に校長室や職員室の入り方を教えてあげないと、<u>後で困っちゃうよね。</u></p> <p>折り紙とリボンで一生懸命に作ったメダル。<u>喜んでくれるかな？</u></p> <p>1年生、楽しめたかな？<u>またやりたいなあ。</u></p> <p>資料3</p>
5	8	<p>①春をさがしに、ペアの1年生となかよく町たんけんに行こう。 ②1年生に教えてあげたり、いっしょにあそんだりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通学路や公園の中に春を見つけて楽しむ。 1年生と合同で町探検に行き、通学路や学区を紹介したり、公園で一緒に楽しく遊んだりする。  <p>○見つけたものを写具に撮らせるようにして、いつでも振り返ることができるようにする。</p> <p>1年生とブランコで遊んだり、鬼ごっこをしたり、虫を捕まえたりしてすごく楽しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 町探検の振り返りをする。 	<p>☆仮説1 ①他学年とのかかわり、仮説2 ①教科を超えた指導計画の工夫 ◎学校探検の反省や改善点を生かして、1年生に親切にするとともに、自分の成長を感じることができる。(気付き)</p> <p>ねえ。ねえ。〇〇さん!!このお花見たことある？</p> <p><u>転ばないように気を付けてね。</u></p>  <p>資料4, 5, 6</p>




V 実践例Ⅱ

(1) 単元名 ようちえんのともだちと なかよし (1学年)

(2) 単元の目標

- ・幼稚園の友達と進んで交流しようとしている。 (生活への関心・意欲・態度)
- ・幼稚園の友達に対する接し方を考えている。 (活動や体験についての思考・表現)
- ・幼稚園の友達と一緒に遊ぶことで、新たな発見や友達のよさを発見したり、自分のよさに気付いたりすることができる。 (身近な環境や自分についての気付き)

(3) 活動の実践 (26時間扱い)

月	時数	・学習活動 ○支援	◎評価 ☆仮説
6月	5	<p>あさがおを ぶれぜんとする けいかくをたてよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育てているアサガオをどうするか話し合う。 ・話し合ったことをもとに、プレゼントを渡す計画を立てる。 ・手紙を書き、プレゼントの準備をする。 ・決めた相手にプレゼントを渡しに行く。 	<p>◎評価 ☆仮説</p> <p>☆仮説1 ①地域の人々、幼稚園とのかかわり ②自己紹介</p> <p>仮説2 ①思考ツール</p> <p>◎誰に渡すか考えて、アサガオをプレゼントすることができる。 (思考・表現)</p>
		 <p>幼稚園の友達にあげたい。 よろこんでくれるかな。</p> <p>朝「おはよう」と言ってくれるおじさんにあげたい。</p> <p>僕たちが種を蒔いたアサガオだよ。大切に育ててね。</p> <p>家に持って帰ってママに見せてあげたいな。</p>	 <p>いつもありがとうございます。</p>
		<p>○思考ツールを使って話し合うことで、自分と友達との考えの違いや共通点に気付くことができるようにする。</p>	 <p>資料7, 8</p>

なかよしのかいをしよう。

第1回幼小交流会

- ・写真の掲示物を交換しペアの顔と名前を覚えておく。**資料9**
- ・川上幼稚園に行ってなかよしの会をする。
 - ①はじめの会
 - ②ペアの友達と自己紹介
 - ③じゃんけん列車
 - ④ペアで園庭遊び
(砂場・ドッジボール・遊具・鬼遊びなど)
 - ⑤終わりの会

- ☆仮説1
- ①幼稚園とのかかわり
 - ②写真の掲示, 年間を通したペアの設定
 - ③川上幼稚園に行って, ペアの友達と一緒に仲よく活動することができる。(思考・表現)

ペアの〇〇君, これからよろしくね。なかよくしてね。



何を作りたい?
手伝ってあげるよ。



幼稚園の友達は楽しんでるかな。
トイレは大丈夫かな。

資料 10, 11, 14

虫つかめる?
何が捕まえられるかな?

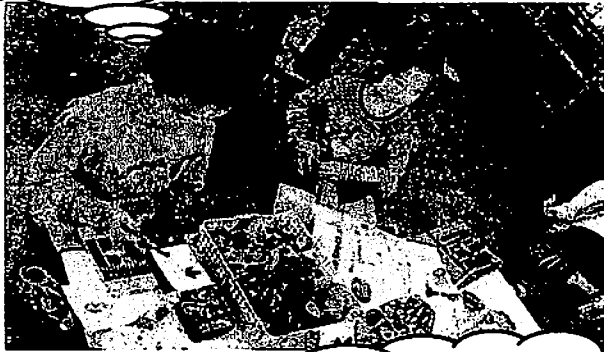


・なかよしの会の振り返りをする。

あきのなかよしのかいをしよう。

- ・秋を見つける。
- ・秋のおもちゃ作りをする。
- ・秋のなかよし会の計画、準備をする。

看板に絵を描いて、何をやるか分かり易くしよう。



どんな遊びだと楽しんでくれるかな。

第2回幼小交流会

- ・ペアの友だちに秋の遊びを紹介する。
- 場の設定を工夫し、幼稚園の友達が楽しく遊べる方法をグループで相談しながら活動できるようにする。

秋の遊び

- ・葉っぱのトランプ
- ・どんぐりおみくじ
- ・どんぐりボーリング
- ・どんぐりごま
- ・はっぱつり
- ・どんぐり的当て

すごいね！
上手！

いらっしゃい！はっぱのトランプ屋さんです。やり方を教えるね！

- ・秋のなかよし会の振り返りをする。

- ☆仮説 1 ①幼稚園とのかかわり
- ②写真の掲示、年間を通したペアの設定

◎川上幼稚園の友達を招待し、作ったものを使って一緒に秋の遊びをすることができる。(思考・表現)

どんぐりに穴をあけるところは手伝ってもらおう。



お客さんがたくさん来て嬉しいな。



資料 12, 14

終わったら、シールをあげるよ。

冬のなかよしかいをしよう。

- ・新1年生にどんなことを教えてあげたいか、話し合おう。
- ・冬のなかよし会の準備をする。

第3回幼小交流会

- ・ペアの友達に川上小学校のことを教える。
 - ①はじめの会
 - ②ミニ朝の会（健康観察）
 - ③国語（運筆）
 - ④音楽（歌とダンス）
 - ⑤学校探検
 - ⑥終わりの会
- 小学校入学が楽しみになるような活動内容や声掛けの方法をあらかじめ考えておき、意識しながら幼稚園の友達と接する事ができるようにする。

鉛筆の持ち方を教えてあげよう。



次に、いい姿勢を説明します。テレビを見て下さい。



入学を待ってるよ。



- ☆仮説1 ①幼稚園とのかかわり
- ②写真の掲示、年間を通したペアの設定
- ◎新しい1年生のことを考えて、川上幼稚園の友達に川上小学校のことを教えることができる。（思考・表現）

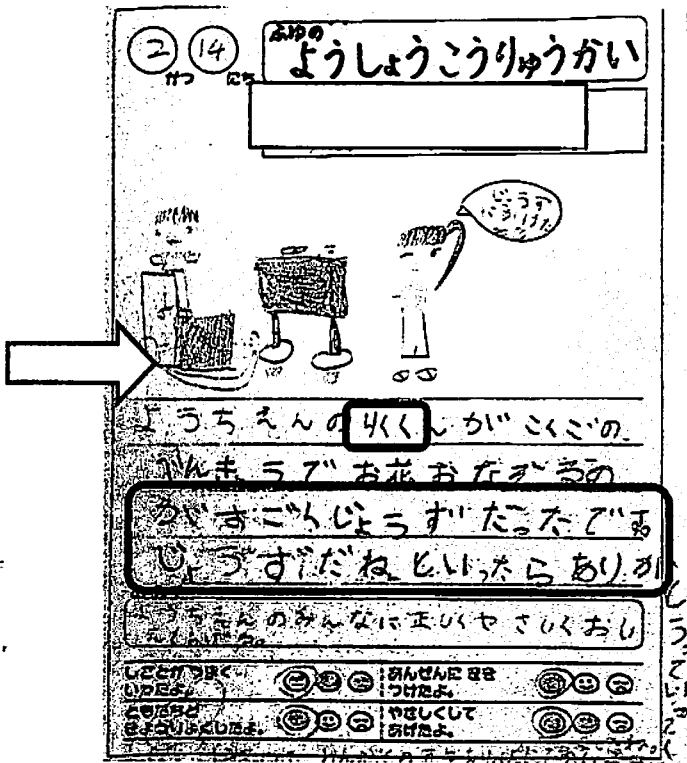
学校探検に行こう。階段に気を付けてね。



・冬のなかよし会の振り返りをする。

資料 13, 14, 15

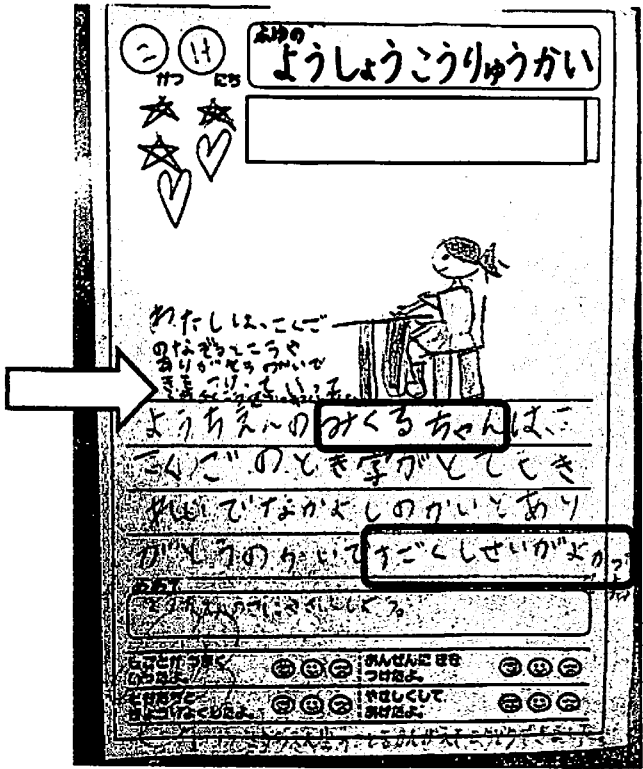
児童A③



はじめは「ドッジボール」で遊んだ事実
だけしか捉えられていないが、2回目には
「幼稚園の友達が楽しく安全に遊べてよ
かった」と、幼稚園の友達を意識して活動
できるようになっている。更に3回目の交
流会では、「幼稚園の友達」ではなく、「○
○君」と、表記方法が個人名になってい
ることに加え、幼稚園の友達を意識的に褒め
るようになった。児童Aはそれに対してお
礼を言って貰えたことが嬉しかったこと
が強く印象に残っているようだった。交流
会の回を重ねるにつれて、主体的に児童が
幼稚園の友達と関わろうとするようにな
り、また、幼稚園の友達と接することに喜
びを感じるようになった。

第3回幼小交流会

児童B③



第1回、第2回では、遊びの内容や、自
分の活動に対しての感想が多いが、第3回
目は、個人名を挙げ、ペアの友達の字が綺
麗だったことや、姿勢が良かったことなど
が書いてあり、自然と幼稚園の友達に注目
しながら活動できていたことがわかる。ま
た、意識的に褒めたり、次の指示を出した
りしながら活動することができるようにな
った。3回の交流会や、その準備とふり返
り活動を通して、だんだんと進んで幼稚園
の友達と関わることができるようになった
ことがわかる。

VI 成果と課題

<仮説1>

人とのかかわりを重視した活動を多く取り入れれば、興味関心が高まり、主体的に取り組む児童が育つであろう。

- 1年生では、年3回の川上幼稚園との交流を行った。園児に喜んでもらおうという目的意識をもつことで、回を重ねるごとに意欲が高まり、試行錯誤しながら活動することができた。
- 幼小交流会からの流れを1・2年の交流につなげたことで、入学後の1年生の不安感を取り除くことができ、2年生は進級の喜びをもつことができた。また、昨年の活動を思い出し、もっと仲よくなりたいという願いや活動への意欲をもつことができた。
- 幼稚園との交流会や野菜を育てる活動、町探検では、活動の前に名前入りの写真を提示したことで、相手意識をもち、スムーズに出会うことができ、親しみをもって活動することができた。
- 幼小交流会では、幼稚園の保護者が参観に来てくださり、子ども達の励みになった。
- アサガオの苗を川上幼稚園や地域の方にプレゼントし、お礼の手紙をいただいたことで、地域の方とのつながりができたことが実感できた。
- 年間を通したペアを設定したことで、相手意識をもって活動することができた。その中で最初は自分の思いを優先していた子どもが、相手の立場になって考えるように変わっていき、上手にできたことを一緒になって喜ぶことができた。
- 幼稚園との行事の兼ね合いで日程調整が難しかった。また、天候や感染症の流行により、延期になることもあった。

<仮説2>

一人一人の気付きを伝え合えるような指導の工夫をすれば、気付きの質が高まり、表現する力が身に付くであろう。

- 「はっけんアイテム」により、観察の視点が明確になり、意欲的に取り組むことができた。
- はっけんカードを「ビンゴカード」にし、自分が発見したものも書くことができるようにしたことで、個に応じたはっけんカードになり、一人一人の気付きを記録することができた。
- はっけんカードを掲示板に貼り、児童の目に触れるようにしたことで、情報の共通理解ができ、自分の考えとの相違点をはっきりし、友達のよさに気付く児童もいた。
- グループでの話し合いの際には、思考ツール(KJ法)を活用したことにより、自分の考えをはっきりさせたり、友達の考えを理解したりして、自分との違いに気付くことができた。
- 探検や話し合いの交流の場でタブレットを使って、画像を撮影したり、画像を見て振り返ったりすることにより、気付きが明確になった。
- 思考ツールを活用した話し合いでは、付箋に書くことに手間取り、話し合いの時間が十分ではなかった。
- 表現の言葉の例示により、作文や朝の会のミニスピーチ、算数等の発表で気付いたことを表現できるようになってきているが、今後も続けていく必要がある。
- 表現活動の場で、様々な表現方法があることに気付かせていったが、偏りがちであった。それぞれの気付きに適した表現ができるように、次単元で工夫していきたい。